

ザンビアの妊産婦に安全を

出産待機宿舎建設へ

アフリカ南部のザンビアで国際協力活動を行う吉野川市山川町のNPO法人・TICOが、農村地域の出産を支援するプロジェクトを始めた。医療施設から遠く離れた村の妊婦が、出産前に診療所の近くで待機できる宿泊所「お産を待つ家」を建てる。医療の知識を持つ保健ボランティアの養成にも取り組む。



医療施設が乏しいザンビアでは、自宅での分娩がほとんど。専門知識のない家族や近所の人が介助するため、不衛生だったり出産中の緊急事態に対応できなかったりして母子が命を落とすケースが少なくないという。劣悪な医療環境を改善しようと、TICOは昨

年3月、国際協力機構シ地区の人口は2万人ほ（JICA）の委託を受どだが、診療所での出産け、首都ルサカ市から約の取り扱いは月10〜17件100名北にあるモンボにどまっている。公共シ地区の中心部に診療室交通機関が未発達で、妊や分娩室を備えた簡易診療婦は長時間もかけて診療療所を建設。地区では唯所まで歩かなければならぬの診療所で、看護師1らず、陣痛が始まってから人と保健ボランティアがらでは来られないため1日20〜30人の患者を診だ。

TICOは診療所で安27の村からなるモンボ全に分娩できるように、ザンビアの新生児と妊産婦の死亡数 国連児童基金（ユニセフ）の「世界子供白書2008」によると、ザンビアでは新生児1000人当たり40人（日本は2人）が死亡、妊産婦10万人当たり8300人（同6人）が妊娠中や出産後に亡くなっている。特に農村地域で死亡率が高いとされる。

吉野川市のNPO法人 募金協力呼び掛け

診療所近くに宿泊所の建設を計画。日本人スタッフ2人が10月から現地設計を進めている。

宿泊所は、鉄骨れんが造りの平屋約180平方メートル。個室4部屋とシャワールームを備えており、国の建設許可が下り次第着工する。数カ月で完成する予定。これに合わせ、妊産婦をサポートできる国認定の保健ボランティアを30人ほど養成する。建設には約400万円かかるため、寄付を募っている。吉田修代表理事は「救えるはずの命を救いたい。ぜひ多くの人に力を貸してほしい」と募金を呼び掛けている。問い合わせはTICO（電話08833(42)2271）。

無断電子化作品配信

アップル社に抗議

出版団体が声明

村上春樹さんらの作品が無断で電子書籍化され、米アップル社のソフト配信サイト「アップストア」で販売されている問題で、日本書籍出版協会など出版関連4団体は14日、「明白な著作権侵害物を配信することは、違法行為のほう助」と抗議する声明を発表した。声明は「アップル社の日本法人や米アップル本社に削除を要請してきたが、違法配信が継続されている」と指摘。「海賊版の提供者は、権利処理を行う意思はない」として、アップル社の配信自体を違法だとしている。